

製本のススメ

Vol. 159

北や南に大きな災害が続いています。こうなると明日は我が身の危機感が迫りますね。防災グッズにも注目が集まっているようです。喉元過ぎるとナントカで、対岸の火事的な感覚になりがち 日頃から防災への備えはしておきたいものです。

今回は**バインダーの表紙は片側合わせ**の話し

特殊な加工でない限り製本機械は『B5』を基準に作られていますので、その前後に対する寸法ならば何も問題は起こりません（A4～B6）しかしそれ以外のサイズの場合には、若干不具合が起こる可能性があります。例えば**A4サイズの横長やA6サイズ以下では加工できない場合も発生します。**

特にバインダーでの表紙クルミ作業においては、本文の折は可能でも表紙がバインダー加工サイズに適さない事がしばしば起こります。これは機械的な問題で 無線綴じは本文の背に合わせて表紙を位置付けていると思われがちですが**実は機械中奥の表紙ガイドの位置を調整し 本文の背中心へ表紙位置が合うように調整しています。** 言い換えれば表紙ガイドの可動範囲でしか無線トジができないわけです。

例えばA版/四切の用紙に表紙を四面つけたとします。これを切り分けるとW220/H156 というサイズになります、一見するとA6本の表紙になりそうですがこれでは表紙ガイドが寄り切らず 表紙を付けることができません。その為四面のうち半分を犠牲にして、表紙ガイドの最小位置まで用紙寸法を伸ばさねばなりません。**これが、片側合わせといわれる所以です。**大きなサイズであれば加工できないと一目でわかりますが、小さいサイズの場合には、加工機械の処理範囲が変わりますので、製本の際には事前に製本会社へ打ち合わせ等されたほうが良いでしょう。製本加工には机上の寸法には見えにくい加工上の寸法が沢山ありますのでご注意ください。



Tea break

昨今高齢者の運転事故が話題ですが、徳川吉宗の時代にはすでに交通法がありました。当時の交通手段といえば 馬・牛・人力ですが馬や牛については監督なしで引いてはいけない・二頭以上を引くときには役所に届け出る・休ませるのは往来の邪魔にならぬ場所・籠については営業許可が必要だったそうです。今も昔も むやみに道路をつかってはいけないのですね。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本